

## 山口の難病患者らの団体

### 差別解消DVD県に寄贈

原因不明の疾患「難治性血管奇形」の患者らでつく



るNPO法人「みらいフラインेट」(山口県)のメン

バーが8日、県庁を訪れ、池田幸博教育長に病気などによる差別解消を訴える啓発DVDを寄贈した。

同NPO法人は病気をはじめ、障害やひとり親世帯などへの無理解から起きる

啓発DVDの目録を渡すNPO法人「みらいフラインेट」の有富健理事長―8日、県庁

差別やいじめをなくすため、2016年に「咲き誇れ、強く」と題したドラマ仕立てのDVDを作成。教育委員会を通して小中学校に無償配布する活動をしている。

8日は有富健理事長らが県庁を訪れ、DVD90枚分の目録を池田教育長に手渡した。有富理事長は「子どもに自分の尺度で測らないようになってほしい。人権教育に役立ててほしい」と要望。池田教育長は「子どもたちをしっかり視聴させたい」と応じた。

## 難病カウンセリング検定

時 9月30日(日) 10時30分～  
12時30分(10時開場)

場 周南総合庁舎(周南市毛  
利町)

対 県内在住の人

内 選択式8分野・記述式2  
分野の10分野からの出題  
※事前学習は必要なし。

定 30人(先着順)

¥ 無料

申 住所、氏名、電話番号を記  
入の上、ハガキ、FAX、また  
はメール

締 8月31日(金)

持 筆記用具、消しゴム、時計  
(携帯・スマートフォンでの  
代用不可)

先 〒747-0035 防府

市 栄町一五ールルサス2階

防 府市市民活動センター気

付 みらいプラネット「難病カ

ウンセリング検定」係 FAX 0

835-24-7733、info@yg

-rvm-support.org

問 検定委員会事務局 ☎090

(9066)4043

## 伝言板

皆さんの活動耳より情報

### ■難病カウンセリング検定

●日時/9月30日(日)10時30分～  
12時30分●場所/県周南総合庁舎  
●内容/▼8分野…選択式▼2分野…  
記述式●定員/30人(受け付け順)  
●検定料/無料●持参物/鉛筆、消し  
ゴム、時計●申込み/8月31日(金)ま  
でに、住所・氏名・電話番号を、郵送・  
ファクス・Eメールで、〒747-0035防  
府市栄町1-5-1防府市市民活動支援  
センター☎0835-24-7733・✉info@  
yg-rvm-support.org●問合せ/検  
定委員会事務局☎090-9066-4043

## 下松市広報「潮騒」 平成30年8月1日

## 広報「しゅうなん」 平成30年8月1日

## 読売新聞

平成30年8月10日

## トピックス

▽難病カウンセリング検定  
9月30日午前10時半、周南市毛  
利町の県周南総合庁舎。難病に  
関する知識や患者への適切な接

し方などを問う検定が行われ  
る。申し込みは8月31日まで。  
原因不明の難病「難治性血管  
奇形」の患者らでつくるNPO

法人「みらいプラネット」が昨  
年初めて企画。同NPOの職員  
と医師、臨床心理士らが問題を  
作った。

難病患者の心理や薬の知識な  
どを問う82問を10分野に分けて  
出題。それぞれの分野とも正答  
率7割で合格となり、全10分野

正解でマスターとして認定され  
る。試験時間は90分。  
無料で、先着30人。住所、氏  
名、電話番号を書いてファクス

(0835・24・7733)で同NPOに  
申し込む。  
問い合わせは同NPO事務局  
(090・9066・4043)へ。

ほうふ日報

平成30年10月23日

# 愛情防府フリマ、今年も盛況

## 【募金・啓発活動も】

愛情防府フリーマーケットの会場では、さまざまな団体が募金や啓発活動を行った。

防府ユネスコ協会（脇正典会長）は、天神ピア前で高校生らとともに募金活動をした。戦争や貧

困などで教育の機会に恵まれない人たちのために、アフガニスタンなどに寺子屋を設置するための費用への協力を求めた。

NPO法人みらいプラネット（有富健理事長）は、うめてらす周辺で一部難病に指定された難治性血管奇形への理解を求め、ちらし配りを実施。高川学園高の11人が病気の症状や活動の経緯を記したちらしを買い物客に手渡し、患者支援などのための募金を募った。

（吉野敦裕）



難治性血管奇形の啓発をする高川学園高生

講演する有富理事長（宇部フロンティア大で）



# 人の痛みが分かる医療人に みらいフ大生に難病患者の経験紹介 プラネット

血管奇形という難病を患つ、NPO法人みらいプラネット（県難治性血管奇形相互支援会）の有富理事長は26日、宇部フロンティア大で、同大人間健康学部看護学科の1年生65人を対象に患者理解を促す講演を行った。自身が受けた差別や偏見を話し「人の痛みが分かる医療人になつて」と呼び掛けた。

血管奇形は先天的な血管の形成異常とされ、全身のどの部位にでも発症する。原因は不明のものが多く、症状はつづくような痛みや発熱、出血などさまざま。運動機能障害も珍しくなく、治療は困難とされている。

同学科では1年生の基礎ゼミの後期で医療従事者としての心構えなどを指導しており、講演もその一環。有富理事長は「講演内容を忘れず、将来の仕事に生かして」と前置きした上で、血管奇形のことや自身の経験談を話した。

間の闘病の歴史は差別の「歴史」と言い切り、北海道の病院でようやく血管奇形と診断された時には涙が出たという。

自身の経験を基に製作した30分間の啓発ドラマも放映して学生に難病患者への理解を求め、「偏見や先入観を持たず、常に社会的弱者の立場で考えられる人になつて。自分を理解してくれる仲間づくりも大事」と呼び掛けた。

（倉重）

宇部日報

平成30年11月27日